

卒業後3年次アンケート（平成30年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などから、改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業後・修了後3年次アンケートを実施し、その結果を公開しています。ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、お礼申し上げます。

【実施時期】

平成30年8月16日～平成30年9月30日

【実施方法】

連絡先住所が判明する平成27年度卒業生101名に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。卒業生の回答は30、回答率は29.7%で、昨年度（回答数17、回答率22.7%）よりやや向上し、回答率は毎年少しずつ向上している。

【結果の概評】

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学部で学べたことに満足していますか」では、「充分」または「それなり」を合わせると90%が「満足している」と回答しており、「あまり満足していない」「満足できず、後悔している」という回答は0であった。この結果は昨年度と大きく変わらず、例年卒業時に行っているアンケートの傾向とも一致し、文学部の教育に対する満足度の高さが窺われる。

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では、「一般的な教養や知識」「専門的な知識と技術」が比較的高い割合を示しているが、「外国語の能力」「専門分野の研究能力」は昨年度よりは多少減少している。一方、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自学自習の姿勢」という項目の選択率は昨年度同様高い割合を示し、本学部の教育の特長がよく表れている。「自己管理能力」「倫理観」も昨年度と同様、比較的高い選択率を示している。一方で、「協調性やチームワーク」「リーダーシップ」を選んだ回答者はゼロであり、これも本学部の教育の特色とはいえるかもしれないが、もう少しチームで課題を解決するような授業や指導があってもいいかもしれない。

【自由記述欄】

Q.04「文学部での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。」
全体的な傾向としては、履修科目の選択や研究課題などが自由に決定できること、学生の樹種性を重んじる指導を良い点とする回答が多く、本学部の特長をよく伝えている。加えて、科目選択の自由度が高いために、自分の専門分野だけではなく、他の分野も含めて幅広く学ぶことができることも指摘されている。さらに、図書や資料が充実していることを挙げる回答も多くみられた。

以下に各回答を列挙する。

- ・ゼミや学位論文などアウトプットの機会。
- ・自由に好きな科目を選び、勉強できたこと。図書が充実していて、よかったです。
- ・スゴ腕の教授陣による、学生の自学自習を尊重した良い意味での緩い学問環境。
- ・自分のやりたい勉強をやる気と時間さえあればとことんできるところ。また分野も幅広く、好きなものが必ず見つかるし、専門分野でなくても幅広い教養を得ることができるところ。
- ・史料や文献が非常に充実しており、それらへの自由なアクセスができるところ。
- ・高い専門性を持ち、かつ面白い教員がたくさんいらっしゃる点。
- ・文献に対してじっくり向き合い、自分の考えを自分の言葉で表現するところ。
- ・専修の授業での演習が充実していた点。
- ・自己責任で研究を進める風土は、自ずと責任感が養われると感じています。学部・院の授業を通じて、難易度の高い外国語文学作品を精読する、短時間で論文を読んでクラスでプレゼンするといった演習は、「外国語の能力」を運用するための様々な周辺の力（例：選択・判断力・調査力）が強化されたように思います。研究方法についても、指導教官の演習を通じて自分で深く調べていくうちに、自然と身につくようになりました。
- ・放任主義な点。
- ・語学科目・講読科目が多く、基礎的な語学力とじっくり考える力が養われた点。
- ・先生方が学生の意見や自主性を非常に尊重しながら指導して下さった点(自分の価値観を押しつけるわけではなく論理的に説明して下さるところ)。
- ・自身の専攻以外の科目も選択できる幅が広がった点。また、そのため、各科目の受講者の専門・年次が多岐に渡っていて刺激を受けられた点。
- ・授業選択の自由度の高さ。
- ・専攻を3年次で決められるところ(入学時に決めなくてよい)。3年次からは院生と一緒に授業を受けられるため、自分次第で教員や院生に関わる機会が持てる。蔵書が多く、研究に便利。
- ・理系学部等と比べて授業選択の裁量が大きかったところ。資料をもとに、レポートや論文を作成する講義が多かったところ。思考の土台となる基礎的な教養があることは、新し

い知識を習得するうえで役に立っています。

- ・授業での説明や与えられた課題を通じて、専攻分野の専門的知識を得られたこと。
- ・図書館には多くの書籍や文献、史料があり、研究のうえで大いに活用させていただきました。今後とも、その数を増やしてゆき、未来の研究者のために役立てられるようにしていただければと思います。
- ・他学部と比べても、履修登録や研究内容の選択における自由度が高いことです。京都大学では、自身の専門以外にも様々な分野の研究に触れたいと思っていたので、こうした環境はとてもありがたかったです。
- ・学風が「自由」と謳っているだけあって、自分の学びたいことを好きに学ぶことができた点。また、文学部の専門科目を2年次から受けられるようになったが、他の大学や他の学部よりも、比較的様々な種類の科目から好きに選択できる方だったと思うので、自分の専門分野だけではなく、社会学や心理学、哲学などと幅広く学べたのが楽しかったし、広い視野を持つことが出来ることに繋がったと思う点。

Q.05「文学部での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に答えてください。」

全体的な傾向は、**Q04** で自由度の高さ、自主性を良い点として挙げつつも、もう少し指導やサポートをしてほしいという回答が多く見られた。これは盾の裏表ではあるが、検討が必要であろう。加えて、基礎的な能力を養う授業、たとえば論文・レポートの書き方の訓練があってもよいという意見も出ている。

以下に各回答を列举する。

・履修しなければならなかった科目が多すぎて、それぞれの科目の関連性が薄かったため、ある分野における知識が浅いま卒業してしまった気がします。コミュニケーション力が弱い教授が多々いらっしゃるので、能弁な人材を育てづらいでしょう。授業内容に関しては、和訳・精読に集中しすぎて「木を見て森を見ず」という印象でした。例えば、物語を精読するという形で一年をかけて読んでいったにもかかわらず、一回の授業に20行程度しか読んでいないため、結局物語の半分にも達しないまま授業が終わってしまったので、全作品を分析する力が養われない授業となってしまう、卒論の質に悪影響を及ぼしてしまう可能性が高いでしょう。京大では科学教育と研究に重点を置きすぎて、人文科学や文学の教育と研究をおろそかにされている気がします。(京大の **OPEN COURSEWARE** を見れば一目瞭然です)。なお、文系の論文はネット上でダウンロードできないものが多くて、テクノロジーを駆使できていないと思います。外国語教育に関しては、文法の授業と会話の授業のレベルが違いすぎて、書面上中途半端に和訳はできても会話力が乏しい語学学習者を育てていると思います。

- ・実力の足りない学生を成長させ、学問の楽しさを味わわせてやろうという雰囲気不足。
- ・教員によっては授業に力が入っていないので、学生が学ぶ分野を決める入口で撥ね付けられるような印象を持つ人がいてもおかしくないところ。
- ・教務の突き放したような対応。
- ・論文、レポートの書き方については、入学当初に叩き込むような科目を設けてもよいのではないかと感じる。また、一回生の時からでも積極的に受講できる専門科目がもう少しあると嬉しい。
- ・学生の自主性を重んじるのは良いが、卒論の指導はもっときめ細やかにして欲しかった。論文の書き方がよくわからないなかで、中間発表が一度あるだけというのは心細かった。
- ・ゼミに参加している者全てが活発な論議を展開できると良い。
- ・管理主義が強まっている点。
- ・所属した専修は先生 1 人に対して学生数が多く、指導の面で他の専修と比べて距離感があったように思う。
- ・学生の自主性を悪い意味で信用しすぎているところ。具体的には、卒業論文やゼミレポートなど、一定時間の計画性と継続性が求められる作業において、それが苦手な人に対するサポートが十分でない。特に、そうした作業が苦手な発達障害学生に対しては重要なことのように思われる。
- ・近現代を専門とする教員が少ない。
- ・他学部間で、事務レベルでの手続き統一や制度改正の共有などを行ってほしかった。
- ・教員は基本的に放任主義なので、もう少し学生の面倒を見てもらいたいです。
- ・年次によって受けられる・受けられないが設定されている講義があり、ほかの必修講義とかぶってしまい、4年間で単位を取得しきるとすると（学士で卒業しました）どうしてもその科目を受けるのを諦めざるを得ない、となってしまうことがあった点。特に、資格取得の際に必要な単位を取りたくても、それが他学部の授業や一般教養である場合、文学部の必修科目とバッティングして取れないことがよくあった（しかもそういう講義は隔年開講が多かった）。そのため、4年間ではある程度限られた資格しかとることが出来なかった。

アンケート名 2018年度 卒業後・修了後3年次アンケート

部局 文学部

対象者数 101

回答者数 30

回答率 29.7

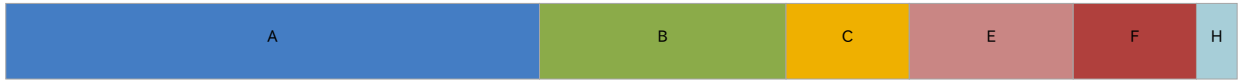
結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 哲学基礎文化学系(思想文化学専攻)(3票/10%)
- B: 東洋文化学系(文献文化学専攻・東洋系)(5票/16.7%)
- C: 西洋文化学系(文献文化学専攻・西洋系)(2票/6.7%)
- D: 歴史基礎文化学系(歴史文化学専攻)(9票/30%)
- E: 行動・環境文化学系(行動文化学専攻)(7票/23.3%)
- F: 基礎現代文化学系(現代文化学専攻)(4票/13.3%)
- G: 無回答(0票/0%)



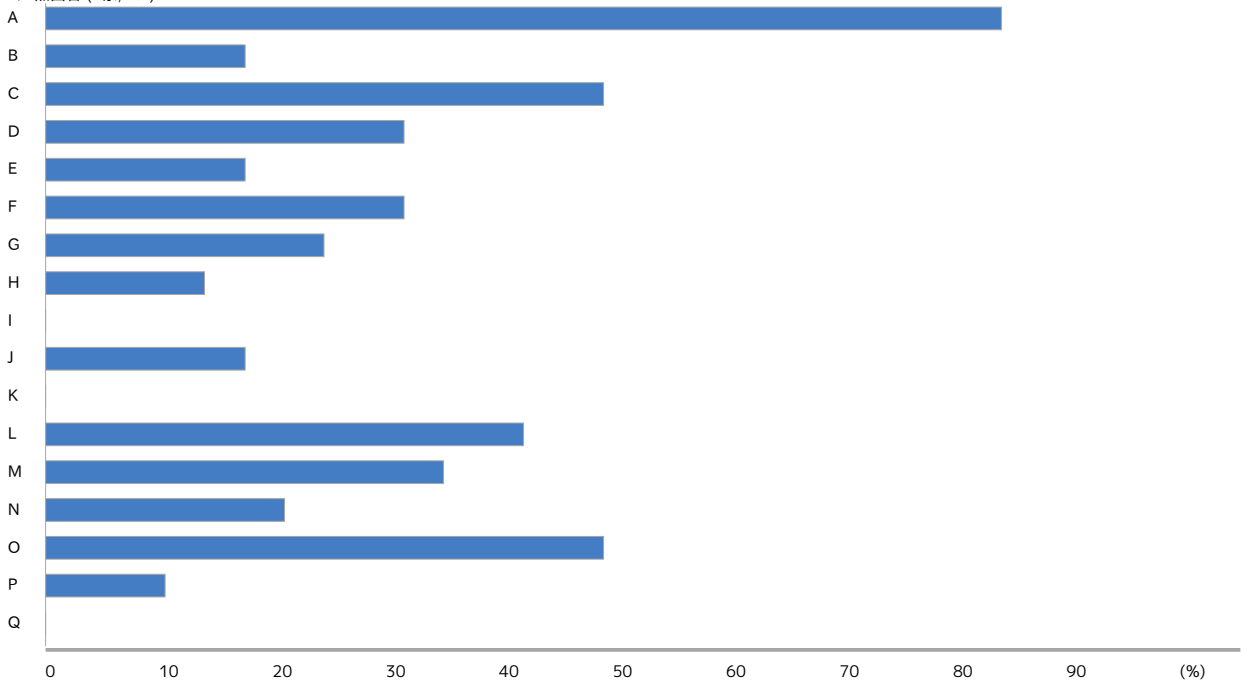
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労)(13票/43.3%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労)(6票/20%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労)(3票/10%)
- D: 社会人(非就労)(0票/0%)
- E: 学生・院生(京都大学)(4票/13.3%)
- F: 学生・院生(他の大学)(3票/10%)
- G: 学生・院生(その他の学校)(0票/0%)
- H: その他(1票/3.3%)
- I: 無回答(0票/0%)



(Q.03) 文学部(文学研究科)での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください(複数選択可)。

- A: 一般的な教養や知識(24票/80%)
- B: 社会的な常識(5票/16.7%)
- C: 専門的な知識と技術(14票/46.7%)
- D: 専門分野の研究能力(9票/30%)
- E: 国際感覚や国際性(5票/16.7%)
- F: 外国語の能力(9票/30%)
- G: 企画力や創造的思考力(7票/23.3%)
- H: 実行力(4票/13.3%)
- I: 協調性やチームワーク(0票/0%)
- J: コミュニケーション能力(5票/16.7%)
- K: リーダーシップ(0票/0%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力(12票/40%)
- M: 自己管理能力(10票/33.3%)
- N: 倫理観(6票/20%)
- O: 自学自習の姿勢(14票/46.7%)
- P: その他(3票/10%)
- Q: 無回答(0票/0%)



(Q.04) 文学部（文学研究科）での勉強について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.05) 文学部（文学研究科）での勉強について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学部（文学研究科）で学べたことに満足していますか。

A：十分に満足している。(17票/56.7%)

B：それなりに満足している。(10票/33.3%)

C：どちらとも言えない。(3票/10%)

D：あまり満足していない。(0票/0%)

E：満足できず、後悔している。(0票/0%)

F：無回答(0票/0%)



修了後3年次アンケート（平成30年度実施）集計結果

京都大学文学部・文学研究科では、卒業・修了して社会に出られた方や進学された方などから、改めて本学部・研究科を振り返って評価していただくために、卒業後・修了後3年次アンケートを実施し、その結果を公開しています。ご協力いただきました卒業生・修了生の皆様に、お礼申し上げます。

【実施時期】

平成30年8月16日～平成30年9月30日

【実施方法】

連絡先住所が判明する平成27年度修了生（修士48名、博士22名）に依頼状を郵送し、京都大学アンケート支援システムにて回答をお願いした。修士課程修了生の回答は15、回答率は31.3%で、昨年度より減少している（昨年度は15名、45.5%）。博士課程修了生からの回答は8、回答率は36.4%で、昨年度の1名、11.1%より大きく改善された。

【結果の概評】

〈修士課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では、1名を除き全員が「充分」または「それなり」に「満足している」と回答していた。全体としては文学研究科の教育に対する満足度の高さが窺われる。

Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では、今年度は回答がかなりばらけていた。比較的高い選択率を示しているのは、「一般的な教養や知識」「専門的な知識と技術」「専門分野の研究能力」「外国語の能力」といった知識や能力に加えて、「自分で問題を発見し、解決を図る能力」「自学自習の姿勢」であり、後者は学部卒業3年次アンケートにも共通し、本研究科の教育の特長がよく表れている。また、「国際感覚や国際性」の選択率が昨年度よりかなり増えており、これは最近の本研究科の傾向と一致する。「協調性やチームワーク」「コミュニケーション能力」も多少の伸びを示している。

〈博士課程〉

Q.06「振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか」では「どちらともいえない」と回答した1名を除き、他はすべて「十分」または「それなり」に「満足している」と回答し、本研究科の大学院教育への満足度の高さを示している。Q.03「文学部での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質について以下より選択してください」では、やはり「専門的な知識と技術」「専門分野の研究能力」「自分で問題を発見し、解決を図る能力」の項目の選択率が極めて高く、博士課程の特長といえるだろう。

また「国際感覚や国際性」も高い選択率を示している。昨年度と比べた場合、専門性の高さを示す選択は、博士課程になって顕著になり、修士修了者ではそれほど高くないのは、近年の修士課程の傾向（研究者養成から学部よりは高度な専門知識をもつが、研究者になるわけではない人材養成）を示しているのかもしれない。

【自由記述欄】

Q.04「文学研究科での勉学について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。」

全体の傾向は学部卒業後 3 年次アンケートと同様で、修士卒業者も博士卒業者も、自由度の高さ、自主的な研究姿勢が身につくことをもっともよい点として挙げている。

個々の回答を以下に列挙する。

〈修士課程〉

・教員、学生仲間、学会、資料、施設など研究活動を行うため環境が高い水準で整っていた点。

・自由に自分の好きなことを好きなペースで研究させてもらえたところ。

・高校教員をしている。専門的な知識が比較的生かされる職場であると思う。卒業時にはわからなかったが、仕事を続けているうちに、大学時代に身につけた教養レベル（とくに専門的知識）が高いものであったことに気づくようになった。この教養レベルと、学生時代に身につけた研究姿勢は、今も教科の研究や授業の組み立てといったところに大いに生かされている。大学には研究熱心な教員が多くいらっしやったことがよかった。研究姿勢を身につけるために、自身の論文研究が役立ったところもあるが、それ以上に、研究熱心な先生方の授業が大いに役立ったと思う。授業から、知識だけでなく、研究と教育への熱意を感じさせてくれる教員が多かった。

・演習の発表準備や修士論文の執筆で、課題を見つけ調べて考えてまとめていく過程において、身についた課題発見力や思考力が社会人になってからも活かしているように思います。

・研究テーマ一つを決めるにあたって、学生の自主性が尊重されるなど、学生に自由が与えられていたところ。

・自由な学風。

・自学自習の姿勢を重視することが徹底されていたこと——京大自体の姿勢かもしれませんが。

・個々の価値観・姿勢・研究テーマ等、一概に否定されることが無く自主的に決定できた点。

・自分で調べて自分でアウトプットを出す訓練ができたところ。

・その道のプロが多くいる。

・文字がたくさん読める。豊富な蔵書や造詣の深い教授たちに（後者は時と場合によるが）容易にアクセスできる、というのは極めて良い点であった。

〈博士課程〉

・ほぼ完全に放任なので、自分のテーマに関して自由に納得できるまで追求できるところ。手取足取りの指導や、教授からの介入が多かったら、私は研究意欲がなくなっていたと思う。

・指導教員による自主性を重んじる指導

Q.05 「文学研究科での勉学について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。」

こちらも全体的な傾向は、学部卒業後 3 年次アンケートと変わらない。自由度の高さが長所である半面、自由すぎるために、自分の研究が正しい方向に進んでいるのかどうかなど、不安をおぼえることも多い、また学生によってはもう少しサポートがあってもいいのではという意見が出ていた。また、やはり論文の書き方などの基礎的な訓練の必要性や、より会話やプレゼン能力などを重視する方向で外国語教育を充実すべきという指摘もあった。加えて、院生が全体として減少している中で、研究室内で院生が負担する雑務が増えているという指摘や、留学生が論文を執筆するためのサポート体制を研究科として制度化すべきではないかという指摘は今後検討すべき点であろう。

以下個々の回答を列挙する。

〈修士課程〉

・私個人の希望は以下です。(1) 研究者が研究に集中できる時間を十分に与えること、(2) 人文学が役に立つか、という馬鹿げた問題に煩わせられないこと、(3) 文部科学省の政策の是非について、大学の立場から社会全体に問題提起すること、(4) 中高生に学問に触れる機会を提供すること。

・教務関係の書類のアナウンスが非常に不親切だと思いました。

・外国語教育の整備に不満があった。外国語の授業では、外国語の文章を読むことが中心で、一方で書いたり話したり聞いたりする時間は少なかった。全学共通科目では改善されつつあったが、文学部・文学研究科での外国語教育の改善はそれに比べるとやや遅れていたように思う。読むことよりも書くことや話すことに重点を置いた外国語教育が行われた方が役立ったと思う（京都大学の学生であれば、とくに英語であれば、論文であっても、それを読むための基礎的な能力はすでに備わっていると思う）。全学共通科目で英語の論文の書き方を学んだことは大いに役立ったと感じる。また、外国語でのプレゼンテーション能力を身につけることも、研究発表の機会を生かすためには重要ではないか。このような

経験や教育を受ける場があるとよかった。

- ・もっと基礎的な能力を養う課程が欲しいと思います。例えば学術論文の書き方、発表の仕方などを教える授業です。

- ・良いところの裏表にあたることなのだが、自由すぎるのが、時に、自分がいま何をすべきかがわからないということにつながることもあった。

- ・修士課程の入学時の指導教員が退職したため、途中で自分の専門とは異なる指導教員に代わり、適切な指導が受けられなかったため、博士課程に進学することができなかった。

- ・前例主義が支配的と感じました。

- ・自主的な学習が前提とされ、強制しないという長所が、一面では自己決定力や意欲に欠ける学生へのフォロー不足を招きがちな点。

- ・学生とのインタラクティブな授業が少なかった。授業中も自分で思考し、発言する場があると良い。

- ・教員との距離が遠すぎて、研究に関する相談ができない。また研究費が少なく、院生に向けてのアルバイト（TA や研究補助）の機会が少なすぎる。こうしたところで教員と関わることも必要だと思う。

- ・文字をたくさん読まなければならない。研究室にそれだけの予算がなかったのか、扱う言語の最新の電子版辞書すら揃っていないというのは強く改善すべき点だと感じました。

〈博士課程〉

- ・上記のことの反面だが、自分の研究が正しい方向に進んでいるのかわからないのでたまに不安になることがある。この指導スタイルだと間違っていたことがわかるまでに時間がかかるので、博士課程 3 年で博士論文を仕上げるという最近の国の流れにのることが難しい。また、ある程度教授からの指示や指導がないと研究が進められないような学生には大変だろうとも思う。

- ・修士課程の授業にプログラミングの授業があるとよかった。

- ・学生の自主性が尊ばれている一方で、学生の自主性に任せすぎている点もある（あった）ように感じる。研究倫理などの「最低限守ってもらわねば困る」ような事項は、それが自分に欠けていることを学生自身では自覚しづらく、したがって学生が自ら学び取ることはあまり期待できないように思う。

- ・学生にとってメリットの薄い他分野での国際交流イベント（ワークショップ、研究会など）や、研究室への無償奉仕（雑誌の運営、留学生・後輩のお世話）に時間が奪われることがあまりにも多かった。

- ・研究室での、明文化されていない暗黙の約束事が多すぎ、それに伴う教官と学生の間、また学生間の無用な摩擦が絶えなかった。

- ・現在の学生の置かれている状況（雑務が多い中、博論を期限内に提出しなければならない、数の少ない日本人学生に負担が集中している、など）に対する理解が足りないと思わ

れる教官が少なくなかった。

・指導が非常に投げやりな教官がいた。なお、この点は試問を公開にすることで改善が見込まれると思う。

・留学生等への（特に学術的な）支援が大きく欠如しているように思います。学生・院生の多くは自由な研究環境を我がものとすることができます（できないような人は京大には向いてないのでしょう、なぜかそんな院生が増えている気がするのですが）が、留学生には、恐らくこの環境は必ずしも快適ではありません。先生方も年々増えてゆく（予算は年々減っていくのに）お仕事を貴重な研究のお時間を割きながらこなし、学生のためにご尽力くださっていることは重々承知していますが、何らかの（制度的な）サポートが必要だと思います。特に学術論文執筆時など。そういう意味での先輩相談室（今ある生活相談ではない）のようなものがあればいいのですが（留学生以外が使っても良い）。これは、これまで研究室単位で、それぞれ OD やドクター上回生が（言われなくても）担ってきたのでしょう。しかし、段々と研究室構成員（これは OD など非正規も含む）が減っている現状に鑑みれば、何か制度として設ける必要があると思います。

アンケート名 2018年度_修士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 48

回答者数 15

回答率 31.3

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

A: 文献文化学専攻・東洋系 (5票/33.3%)

B: 文献文化学専攻・西洋系 (1票/6.7%)

C: 思想文化学専攻 (2票/13.3%)

D: 歴史文化学専攻 (4票/26.7%)

E: 行動文化学専攻 (2票/13.3%)

F: 現代文化学専攻 (1票/6.7%)

G: 無回答 (0票/0%)



(Q.02) あなたの現況について教えてください。

A: 社会人(一般企業等で就労) (6票/40%)

B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (3票/20%)

C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (3票/20%)

D: 社会人(非就労) (0票/0%)

E: 学生・院生(京都大学) (2票/13.3%)

F: 学生・院生(他の大学) (0票/0%)

G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)

H: その他 (1票/6.7%)

I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学研究科での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立つ能力や資質を教えてください。

A: 一般的な教養や知識 (12票/80%)

B: 社会的な常識 (4票/26.7%)

C: 専門的な知識と技術 (10票/66.7%)

D: 専門分野の研究能力 (11票/73.3%)

E: 国際感覚や国際性 (7票/46.7%)

F: 外国語の能力 (11票/73.3%)

G: 企画力や創造的思考力 (3票/20%)

H: 実行力 (4票/26.7%)

I: 協調性やチームワーク (5票/33.3%)

J: コミュニケーション能力 (5票/33.3%)

K: リーダーシップ (4票/26.7%)

L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (8票/53.3%)

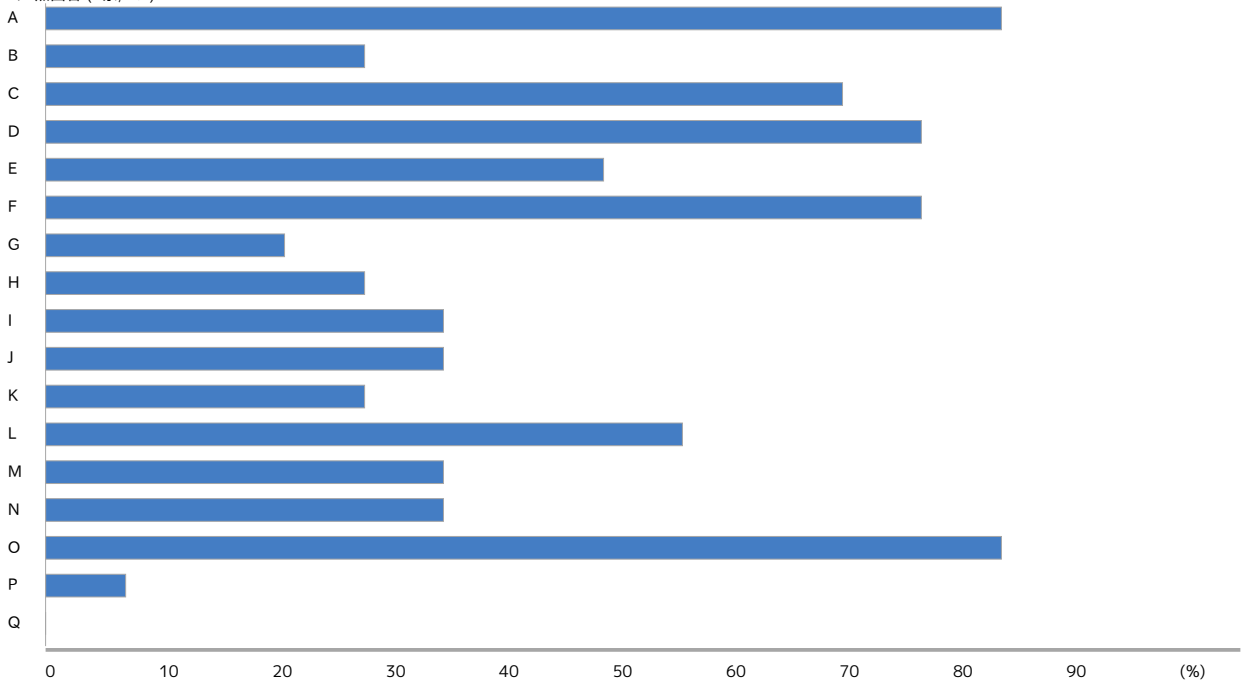
M: 自己管理能力 (5票/33.3%)

N: 倫理観 (5票/33.3%)

O: 自学自習の姿勢 (12票/80%)

P: その他 (1票/6.7%)

Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学研究科での勉強について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.05) 文学研究科での勉強について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(6票/40%)
- B: それなりに満足している。(8票/53.3%)
- C: どちらとも言えない。(0票/0%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(1票/6.7%)
- F: 無回答 (0票/0%)



アンケート名 2018年度_博士_修了後3年次アンケート

部局 文学研究科

対象者数 22

回答者数 8

回答率 36.4

結果 (Q.01) あなたが属していた系(専攻)を教えてください。

- A: 文献文化学専攻・東洋系 (2票/25%)
- B: 文献文化学専攻・西洋系 (1票/12.5%)
- C: 思想文化学専攻 (2票/25%)
- D: 歴史文化学専攻 (1票/12.5%)
- E: 行動文化学専攻 (2票/25%)
- F: 現代文化学専攻 (0票/0%)
- G: 無回答 (0票/0%)



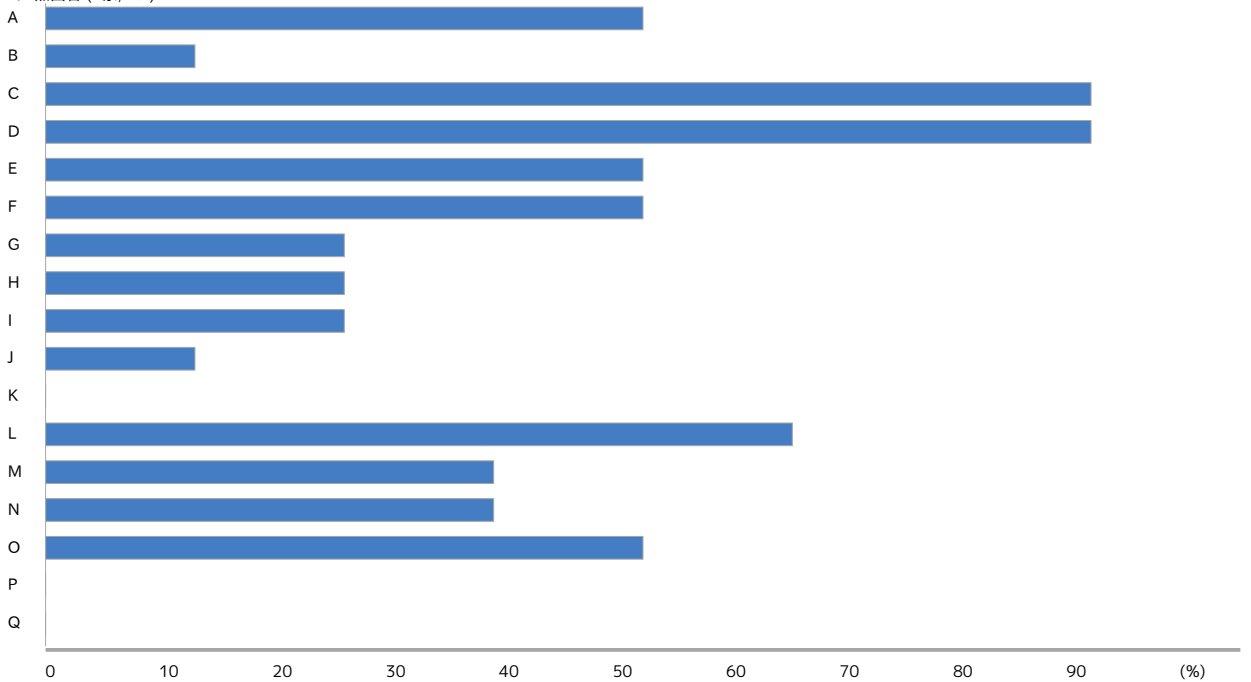
(Q.02) あなたの現況について教えてください。

- A: 社会人(一般企業等で就労) (0票/0%)
- B: 社会人(官庁・地方自治体等で就労) (0票/0%)
- C: 社会人(教員・司書等の専門職として就労) (4票/50%)
- D: 社会人(非就労) (1票/12.5%)
- E: 学生・院生(京都大学) (0票/0%)
- F: 学生・院生(他の大学) (0票/0%)
- G: 学生・院生(その他の学校) (0票/0%)
- H: その他 (3票/37.5%)
- I: 無回答 (0票/0%)



(Q.03) 文学研究科での勉学を通じて身につけ、卒業後に役立った能力や資質を教えてください。

- A: 一般的な教養や知識 (4票/50%)
- B: 社会的な常識 (1票/12.5%)
- C: 専門的な知識と技術 (7票/87.5%)
- D: 専門分野の研究能力 (7票/87.5%)
- E: 国際感覚や国際性 (4票/50%)
- F: 外国語の能力 (4票/50%)
- G: 企画力や創造的思考力 (2票/25%)
- H: 実行力 (2票/25%)
- I: 協調性やチームワーク (2票/25%)
- J: コミュニケーション能力 (1票/12.5%)
- K: リーダーシップ (0票/0%)
- L: 自分で問題を発見し、解決を図る能力 (5票/62.5%)
- M: 自己管理能力 (3票/37.5%)
- N: 倫理観 (3票/37.5%)
- O: 自学自習の姿勢 (4票/50%)
- P: その他 (0票/0%)
- Q: 無回答 (0票/0%)



(Q.04) 文学研究科での勉強について、特にどのような所が良かったか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.05) 文学研究科での勉強について、特にどのようなところが不満あるいは改善すべき点だと感じたか、自由に教えてください。

●回答無し

(Q.06) 振り返ってみて、あなたは文学研究科で学べたことに満足していますか。

- A: 十分に満足している。(4票/50%)
- B: それなりに満足している。(3票/37.5%)
- C: どちらとも言えない。(1票/12.5%)
- D: あまり満足していない。(0票/0%)
- E: 満足できず、後悔している。(0票/0%)
- F: 無回答(0票/0%)

